

土に親しみ 稲刈り体験

亀山八幡宮 地域の児童ら参加



熱心に稲を刈る子どもたち

下関市吉母の亀山八幡宮の児童や保護者ら約60人が稲刈りを体験。慣れない手つきで、こ

べを垂れた稲穂を刈り取った。

亀の子会は、地域の

子ども会が減少しているため、同宮が今年結成。名池、文関、王江の各小学校の児童や幼稚園児が参加している。

「土に親しむ経験が少ない子どもたちのために」と計画した稲刈

りには、吉母小の児童11人も参加。初夏に自分たちで植えたコシヒカリの苗は黄金色に成長し、約300平方メートルの田で、児童らは我先にとカマをあて約140キを収穫した。

同市田中町の主婦、

桃崎知子さん(34)は、

長男雄太郎君(6)も名

池小1年Ⅱの一生懸命

な姿に「稲刈りなんて

私もしたことがない。

いい体験ですね」と目を細めた。

【尾垣和幸】

亀の子会の子ら 60人が稲刈り

下関

今年6月に発足した下関市の亀山八幡宮(竹中恒彦宮司)の子ども会「亀の子会」が同月に田植えをした稲の収穫が20日、同市吉母であり、亀の子会の子どもや吉母小学校の児童ら約60人が参加した。

子どもたちはかまを手に田んぼに入り、稲刈り。うれしそうに表情で親に刈り取った稲を見せていた。同会では、12月に刈り取った稲の脱穀、精米や、飯ごう炊さんでの試食、しめ飾り作りなどを予定している。今年猛暑の影響で周りの田は例年に比べて米の収



一生懸命稲を刈り取る子どもたち

穫量が少なく、亀の子会が田植えをした約3畝の田でも、予想よりは少なめの約150キの収穫だったという。

田植えにも参加した同市の文関小2年の高谷礼君(7)は「稲が大きくなっていくか楽しみにしていた。大きくなった稲を刈り取れて楽しかった」と笑顔だった。